

令和3年度 奈良県子ども読書活動推進フォーラム

義務教育諸学校における 子どもの読書活動の充実

～学校図書館の利活用の向上を目指して～

2022.2.22 (Tue.)

奈良教育大学 横山真貴子

yokoyama@cc.nara-edu.ac.jp



● 講演の内容

子どもの読書活動の充実を考えるためのヒント

1. 大規模調査の結果から

「読書離れ」の実態と、「読書好き」を育てるヒント

子供の頃の読書活動の効果に関する調査研究

(国立青少年教育振興機構, 2021)を中心に

2. 実践から

(1) 絵本との出会いにもある格差

(2) 幼児教育の現場から

(3) 小学校の現場から

3. まとめ 身近に本がある環境
子どもと本をつなぐのは人



子どもの読書活動の
充実を考えるヒント

1. 大規模調査の結果から 「読書離れ」の実態と、 「読書好き」を育てるヒント



- 子供の頃の読書活動の効果に関する調査研究
(国立青少年教育振興機構, 2021年3月)

<https://www.niye.go.jp/files/items/6935/File/gaiyou.pdf>

●子供の頃の読書活動の効果に関する調査研究 ～「読書離れ」の実態と、「読書好き」を育てるヒント～ (国立青少年教育振興機構, 2021年3月)

- **目的**: 子どもの頃の読み聞かせや読書活動が、成人の読書活動や意識・非認知能力に与える影響を検証するとともに、読書活動の経年変化や情報環境の変化との関連などについて明らかにし、子どもの読書活動の推進に資する。

- **調査概要**: + 子どもの頃の読書活動と認知機能の関連について大学生対象に分析

① **調査対象**: 20～60代の男女 5,000人 (各年代、男女各500人)

② **調査方法及び期間**: インターネット調査。2019年2月中旬に実施。

③ **調査内容**:

(1) **デモグラフィックデータ** 職業、学歴、年収、結婚の有無、子どもの有無

(2) **子供の頃の読書活動** 各年齢(小中高)期の読書量、読書経験、・・・

(3) **現在の読書活動** 読書好き、読書冊数、読書時間、忘れられない本・・・

(4) 現在の資質・能力(意識・非認知能力)

- **自己理解力** (「今の自分が好きだ」「自分には自分らしさがある」など自己肯定感を包含)
- **批判的思考力** (「ものごとを順序だてて考えることが得意だ」など客観的、多面的、論理的に考える力、自分あるいは他者をまとめる力、コミュニケーション力を包含)
- **主体的行動力** (「分からないことはそのままにしないで調べる」など何事にも進んで取り組む姿勢や意欲)



●調査結果のポイント

「読書離れ」の実態と、「読書好き」を育てるヒント

- ① 子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向にある。
- ② 興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通じた読書量が多い傾向にある。
- ③ 年代に関係なく、**本（紙媒体）を読まない人が**増えている（2013年と比較して）。
- ④ スマートフォンやタブレットなどの**スマートデバイスを使った読書**は増えている。
- ⑤ 読書のツールに関係なく、**読書している人は**していない人よりも**意識・非認知能力が高い傾向があるが、本（紙媒体）で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。**



① -1 子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と認知機能が高い傾向にある。

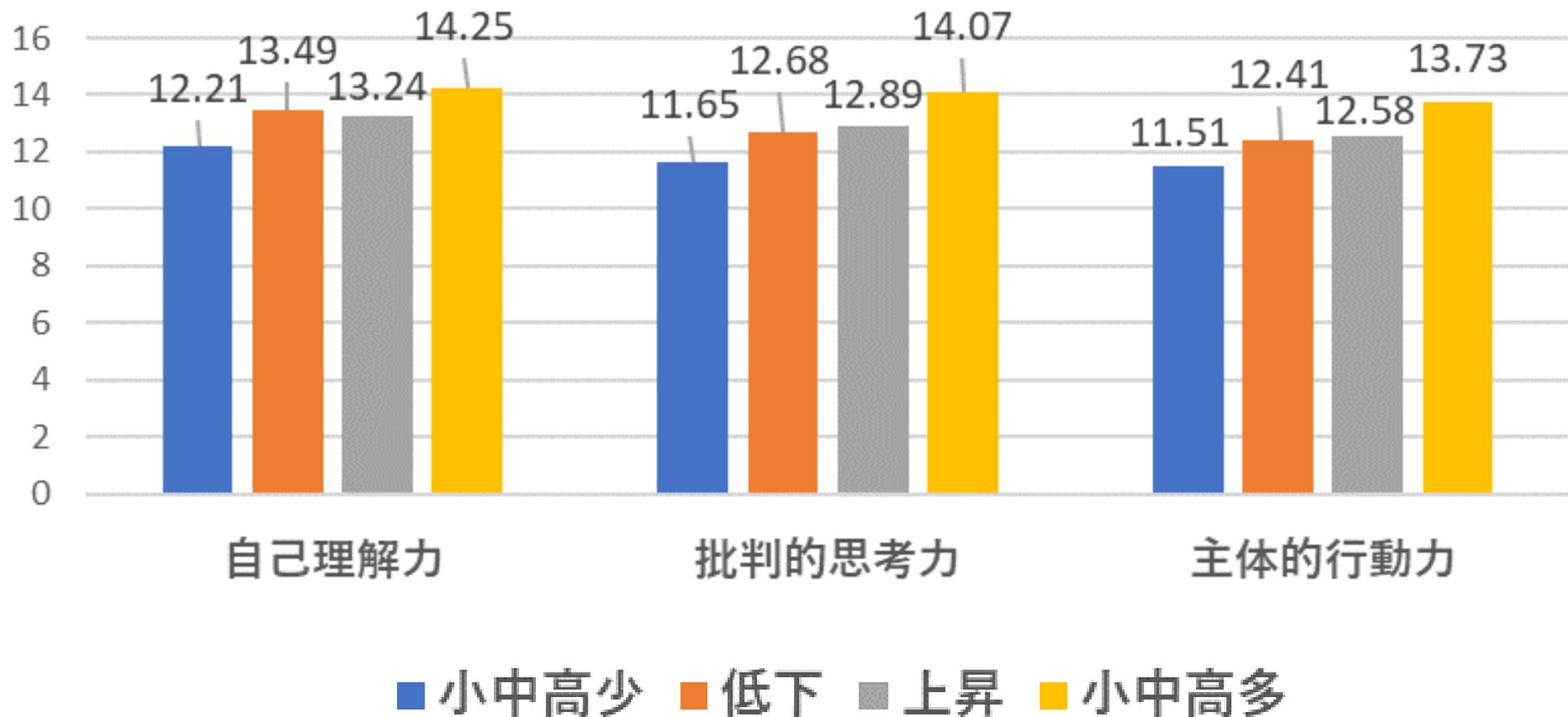


Figure 1 子どもの頃の読書量グループによる意識・非認知能力の違い

① -2 子どもの頃の読書量が多い人は、意識・非認知能力と**認知機能**が高い傾向にある。

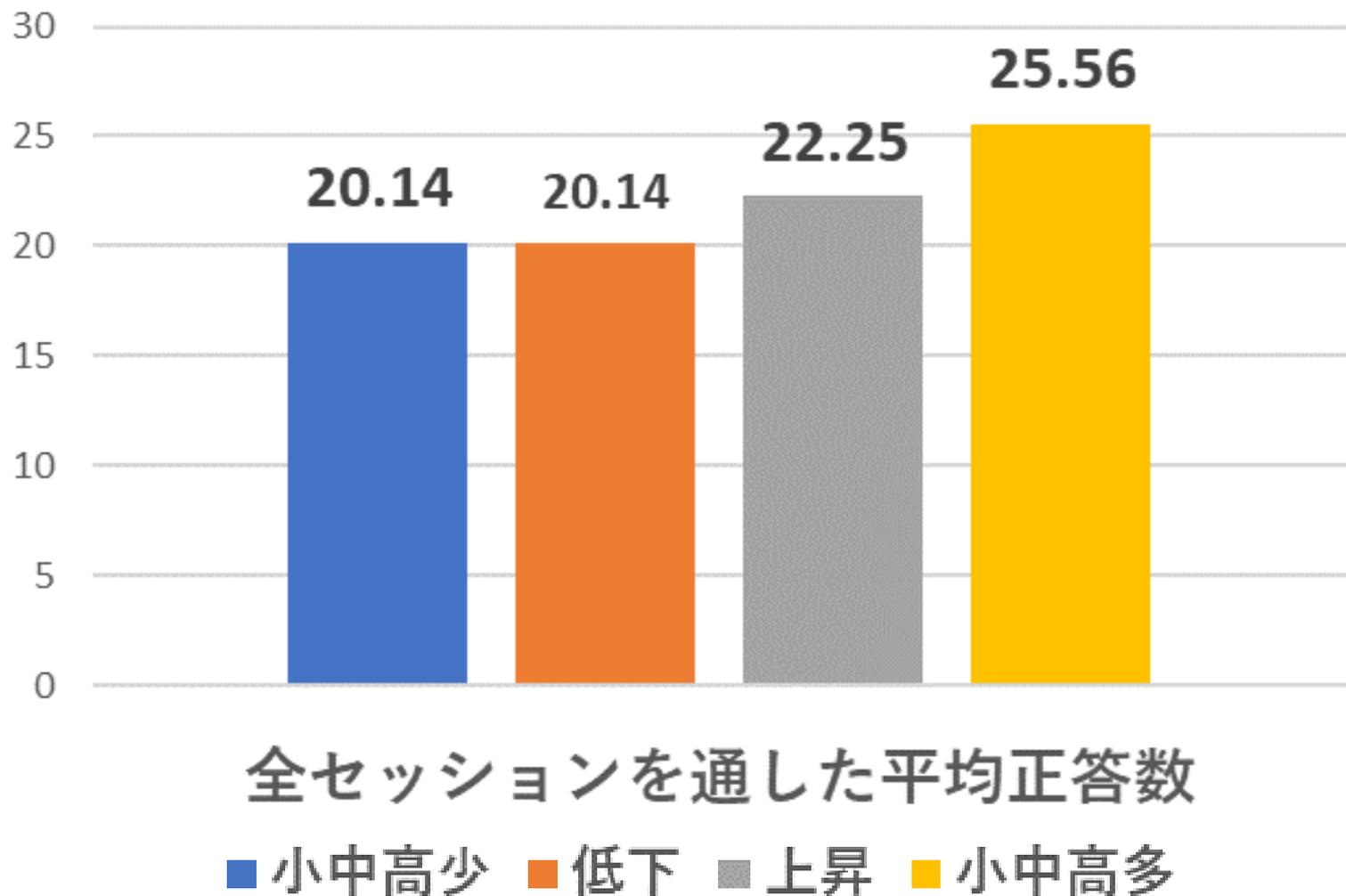


Figure 2 子どもの頃の読書量グループによる**認知機能** (ワーキングメモリ) の違い 7

② 興味・関心にあわせた読書経験が多い人ほど、小中高を通した読書量が多い傾向にある。

Table 1 読書量の多さ、少なさに関連する小学校高学年の読書活動に関する経験

小中高を通した読書量の多さ

- 本を持ち歩いて読むこと
- 地域の図書館で本を借りたこと
- ジャンルを問わず読むこと
- 同じ本を繰り返し読むこと
- 目次、前書き、解説等本文以外の部分も読むこと
- 図書委員、子ども図書、読書コンシェルジュの活動をしたこと
- 絵本を読んだこと

小中高を通した読書量の少なさ

- 1日に読むページを決めて読むこと
- 著者がどのような人か理解してから読むこと
- 学校や市の推薦図書を選ぶこと

自由な読書を妨げる？

国立青少年教育振興機構（2013）の調査から

③子どもの頃の読書活動は、大人になってからの本とのかかわりに関連する

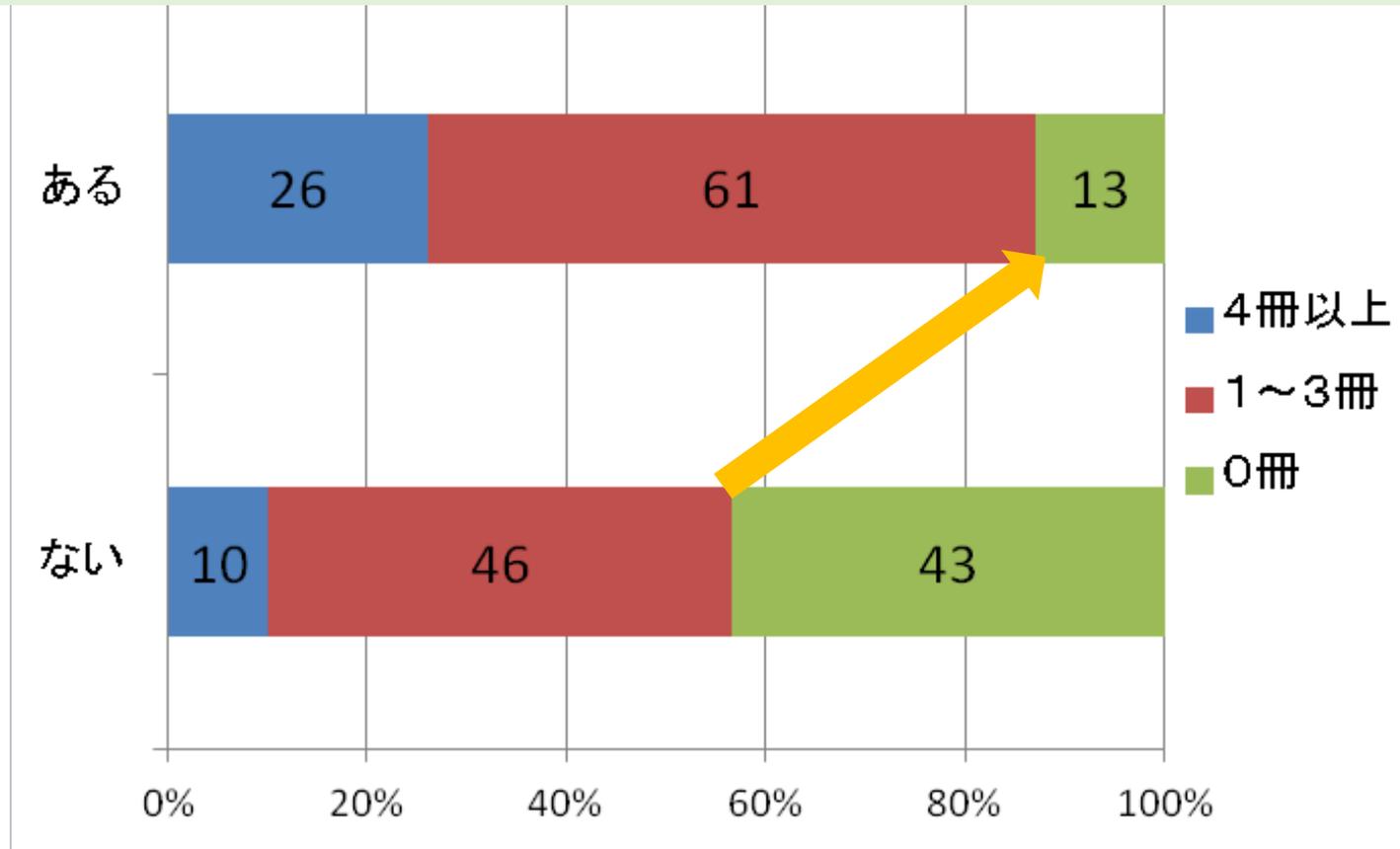


Figure 3 「好きな本」や「忘れられない本」の有無と1か月に読んだ本の冊数（現在）
（大人：20～60代）

● 「好きな本」「忘れられない本」がある大人は、
現在、読む本の冊数が多い

国立青少年教育振興機構（2013）の調査から ⑤読書と共に体験も重要

体験活動に関する質問項目例

自然体験
・海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたことなど
友だちとの遊び
・ままごとやヒーローごっこをしたことなど
家族行事
・家族で家の大掃除をしたこと など
動植物とのかかわり
・蝶やトンボ、バッタなどの昆虫をつかめたこと など
地域活動
・近所の小さい子どもと遊んであげた など
家事手伝い
・食器をそろえたり、片付けたりしたことなど

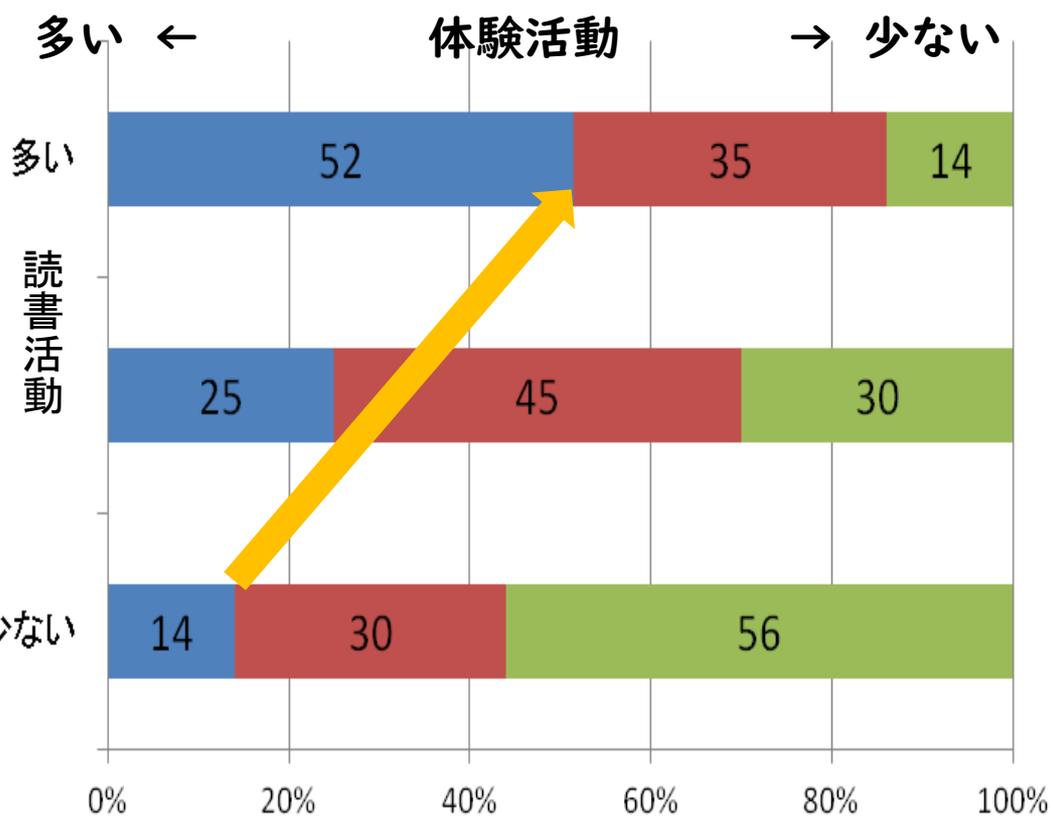


Figure 4 子どもの頃の読書活動と子どもの頃の体験活動 (大人: 20~60代)

●子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、子どもの頃の「体験活動」も多い

③ 本（紙媒体）を読まなくなった人は、年代に関係なく増加している。

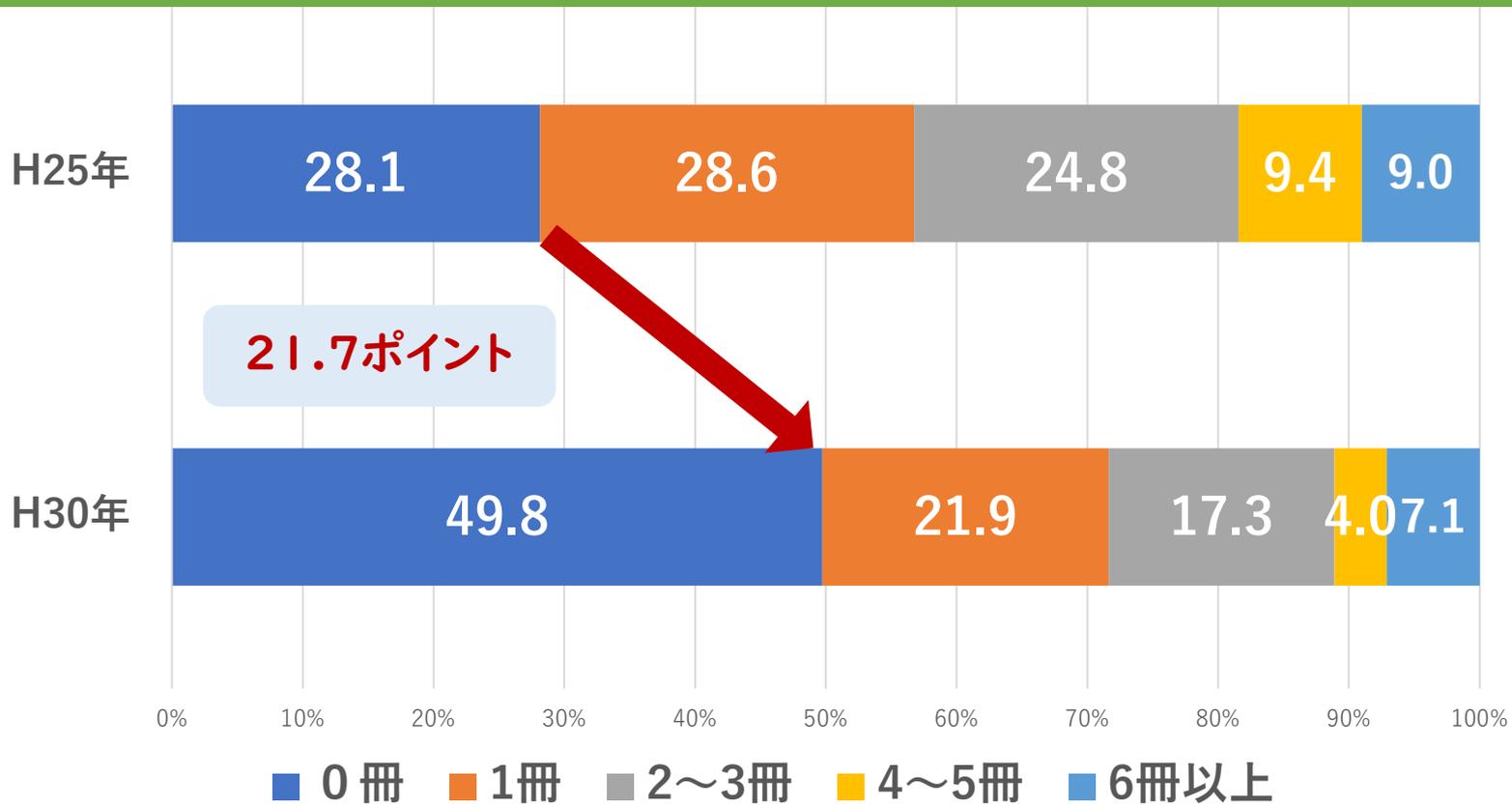


Figure 5 1ヶ月に読む本（紙媒体）の量の経年比較（H30年5,000人、H25年5,258人）

- 「0冊」と回答した割合が最も多い年代は**30代（54.4%）**
- H25年に比較し、「0冊」と回答した割合が最も増えている年代は**20代（25.1ポイント増、52.3%）**

④ 携帯電話やスマートフォン、タブレットなどのスマートデバイスを用いて本を読む人の割合は増えている。

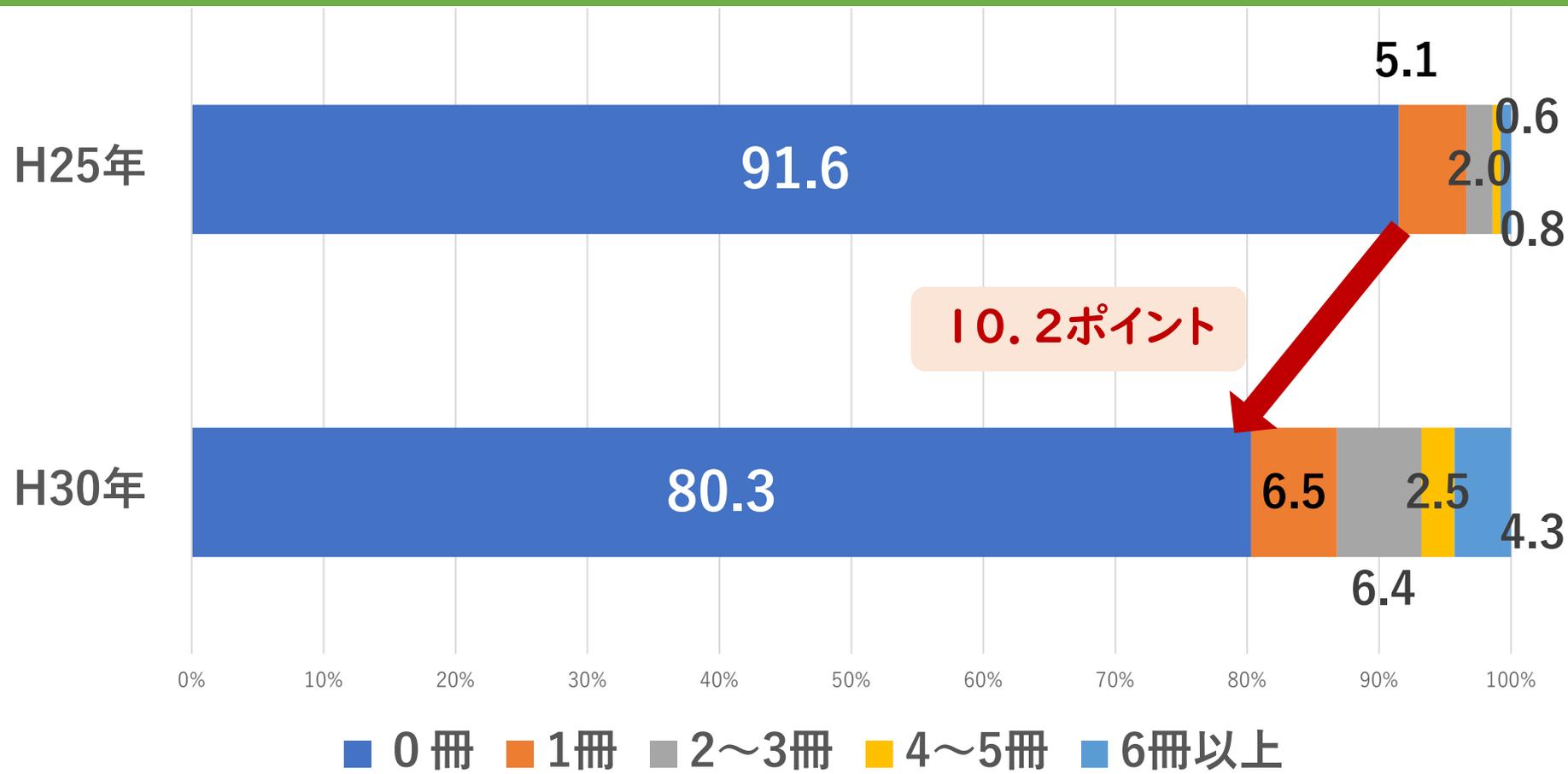
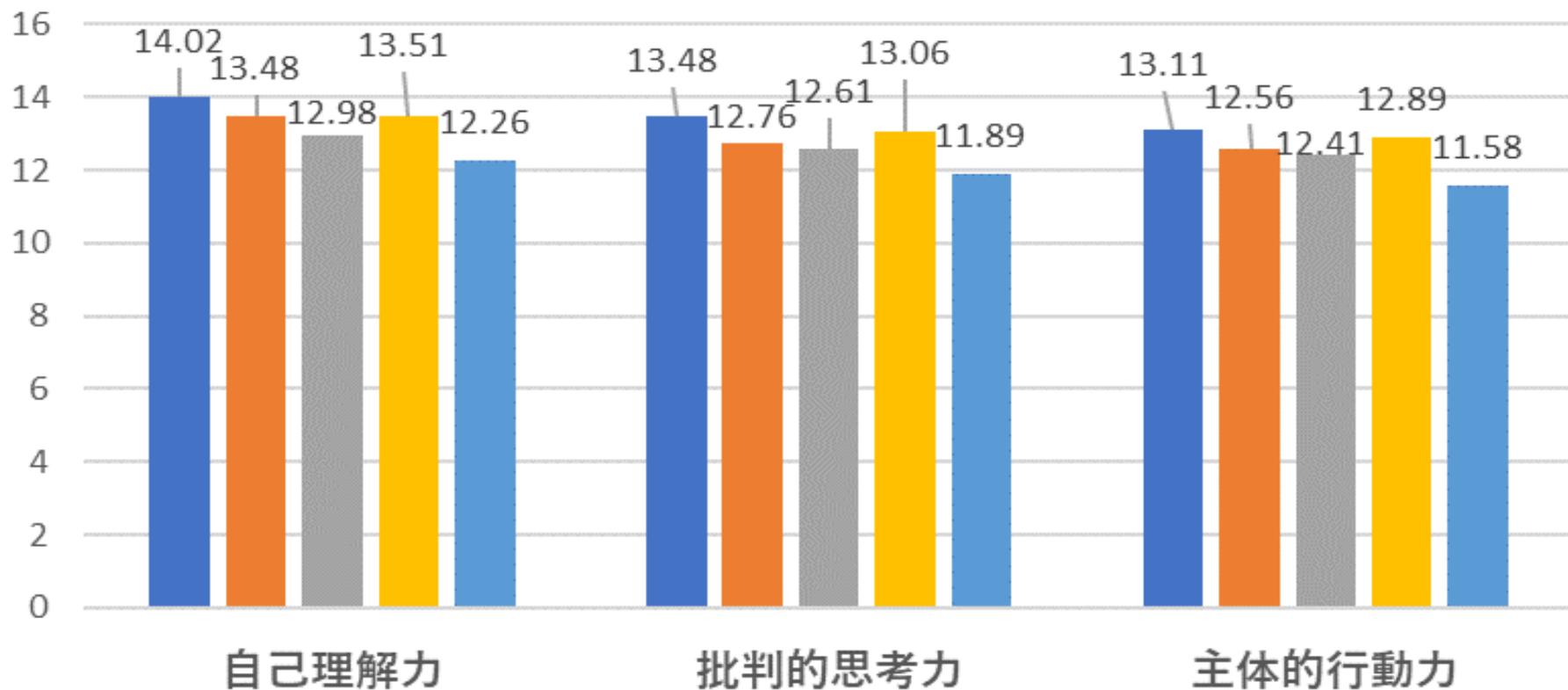


Figure 6 パソコンを利用した1日当たりの読書時間の経年比較 (H30年5,000人、H25年5,258人)

● 携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日当たりの読書時間の経年比較では、年代に関係なく15分以上と回答した割合が増加。

⑤ 読書のツールに関係なく、読書している人はしていない人よりも意識・非認知能力が高い傾向があるが、本（紙媒体）で読書している人の意識・非認知能力は最も高い傾向がある。



- 紙媒体中心
- スマートデバイス中心
- パソコン中心
- パソコン、スマートデバイス中心
- 読書時間低

Figure 7 使用ツールにおける意識・非認知能力得点の違い

子どもの読書活動の
充実を考えるヒント

2. 実践から

- (1) 絵本との出会いにもある格差
- (2) 幼児教育の現場から
- (3) 小学校の現場から



(1) 絵本との出会いにある格差

「子どもに関する社会的必需品」の調査 (2008)

● 「絵本や子ども用の本」

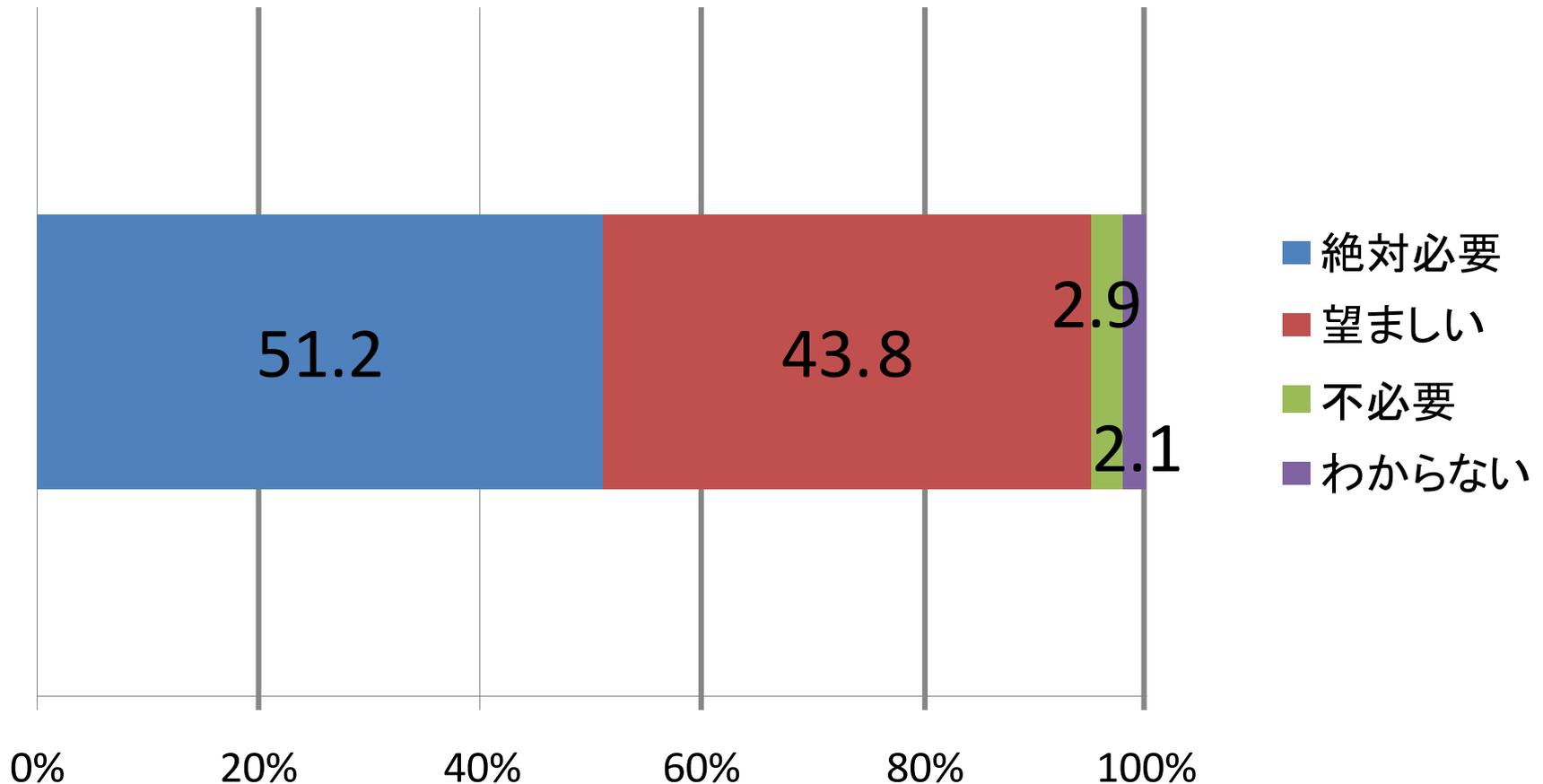


Figure 8 「絵本や子ども用の本」の必要度

出所:阿部(2008,pp.186-187 表6-1をもとに作成)

元データ:「児童必需品調査」(2008年)(対象=20歳以上の成人1800人)

3. まとめ

身近に本がある環境
子どもと本をつなぐのは人

